

泰日協会学校（バンコク日本人学校）学校だより  
Thai Japanese Association School



令和6年  
第3号

〈メールアドレス〉  
<https://www.tjas.ac.th>  
〈電話番号〉  
02-314-4151

## バンコク日本人学校の教育課程について

「教育課程」とは、学校教育目標を達成するために、児童生徒の心身の発達に応じ、1年間の教育活動の中で教育内容を総合的に組織した各学校の教育計画のことです。

バンコク日本人学校の学校教育目標は、

### 「夢や希望をもって前進する子供の育成」

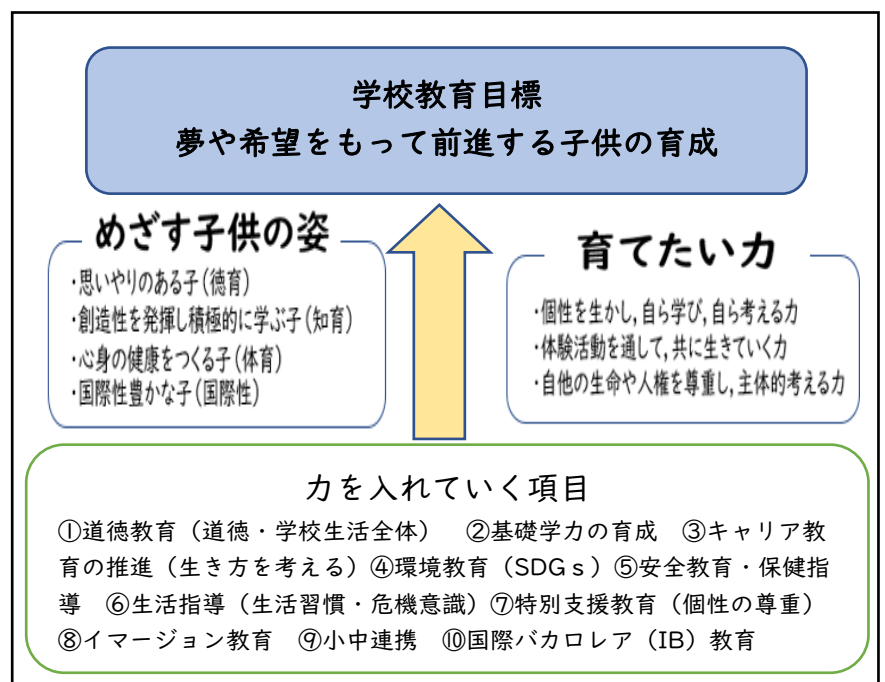
です。

この目標を達成するために、【学校教育】では様々な計画を立てています。その中で柱となっているのは、「めざす子供の姿」と「育てたい力」です。

教職員は「めざす子供の姿」を明確に設定し、その「力」を育むために、各学年の発達段階に応じて学年目標を作成したり、研究推進委員会や各教科部会という組織（教員での組織）などを通して、どんな授業を行ったらよいかなどを研究したりしています。また、学校全体で3つの局面（3Phase）を意識し、学びに向かう集団づくり、安心できる環境づくりを基盤とし、そのうえで一人一人が可能性を見出したり集団の中で参画したりしながら個を伸ばしていく過程を意図しています。

教科指導、学年・学級経営、行事の取組等が年間のどの局面に当たるのかを全教職員で意識しながら教育活動を行っていきます。

学校教育目標達成のために「力を入れていく項目」もあります。この中の⑨小中連携について、小中一貫校として「つながり」を大切にした教育活動を行っていきます。一昨年度、昨年度と続けてきた「ゆめ集会」などの縦割り活動をベースに、さらに「学習面」「生活面」「特別活動面」などにおいて、小中学部の連携を大切に教育活動を行います。⑩国際バカロレア（IB）教育について、本校は「国際性豊かな子」を目指す子供の姿に掲げており、より具体的な児童生徒像として「Global 人材の育成～世界に貢献できる日本人～」に



重点を置いています。具体的な取組として、国連が提唱するSDGs及び国際バカロレア機構が設定した10の学習者像に賛同し、これらを意識した教育実践を目指しています。本校では昨年度からの3年計画としてIB教育の実践に取り組んでおり、Global人材育成のために国際バカロレア機構が設定する概念獲得に向けた教育活動を行っています。

## 自ら学び，自ら考える

本校では小学部から中学部への9年間の学びを通して、子供たちの発達段階に応じた「自立した学習者」の実現を目指しています。その意味で、中学部の生徒は小学部の児童たちにとって、手本となる姿を見せられるよう頑張っています。

子供たちは様々な場面で、自らが考え、判断し、行動していくことの重要性を、日々の実践を通じて学びます。これまでの教育活動の中で、子供たちはGoogle Classroomを活用したICTスキルが大きく向上しています。授業でのICT活用はもちろんのこと、委員会や生徒会、運動会・体育祭、合唱祭などの行事の際にもGoogle Classroomを有効利用します。昨年度は縦割りグループごとにGoogleスライドを作成して、生徒が主体的に連絡調整を行いながら、それぞれの活動の企画運営を行いました。これまでに身に付けた技能を活用し、自分たちで考えながら様々な活動に取り組んでいます。

バンコク日本人学校では、9年間を通して段階的に、一步一步夢に向かって進んでいく力を身に付けます。

## ご家庭／地域の皆様とともに

学力向上、豊かな心、たくましい体の育成など、子供たちにとってよりよい教育を行っていくには、「学校」「家庭」「地域」の協力が大切です。

【地域との繋がり】ですが、海外ということもあり、日本人学校は日本国内と比べると、地域と繋がるのが難しいように感じます。しかし、バンコクには、日系企業が多く、専門性の高い方や企業が多く見られます。昨年度は生活科や総合的な学習の時間等に企業や保護者の方々にご協力いただき、より深い学びの場を設定することができました。学校内外を通して、子供たちの多様な体験活動の充実を図ることができるよう、教育活動等を見直していきます。



【家庭との連携】について、『家庭教育はすべての教育の出発点。家族の触れ合いを通して、子供が基本的な生活習慣や生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、他人に対する思いやりや、基本的倫理観、自尊心や自立心、社会的なマナー等を身に付けていく上で、重要な役割をはたしています。(文部科学省「子供たちの未来を育む家庭教育」より)』とあります。学校で、子供たちが力を発揮できるのも家庭があつてこそと考えます。今後も、「学校」「家庭」「地域」が共に歩むパートナーとなり、子供を中心に据えて話し合っていければと思っています。変わらぬご理解ご協力をお願いいたします。

## 令和6年5月1日、文部科学省の盛山正仁大臣が バンコク日本人学校を視察に来られました。

まず、学校側から「バンコク日本人学校」の紹介をしました。盛山大臣は、児童生徒数が2千人を超える世界最大規模の日本人学校の教育の仕組みに興味をもっておられました。学級数の多さやタイ語の学習、そして、ネイティブの教師による英語教育、特別支援教育やICTを活用した教育、50mプール等、学校の施設にも関心をもたれ、校内を視察されました。



子供たちの学習の様子をご覧になられた後、盛山大臣は、タイのバンコクにあって、日本同様の教育活動を行っていることに感銘を受け、様々な児童生徒のニーズに応じた教育活動について思いをめぐらされていました。また、小さいころから海外で生活し、タイの人・文化等と触れ合うことは、その後の人生にとって貴重な経験になることと思う感想を述べられていました。盛山大臣の帰り際には、本校の児童と握手を交わして下さる時間があり、気さくな人柄を見せてくださいました。和やかな雰囲気の中、バンコク日本人学校を後にされました。



(英語教育)



(来校記念に時計をいただきました)



(子供たちとの握手)